

春夏秋冬



武蔵野会ニュース No.190 令和5年10月15日

発行 社会福祉法人武蔵野会

本部 東京都八王子市旭町12-4.201 TEL042(631)6341

<https://musashinokai.jp/>

特集 「未来へのステップ」 拡大版ニュースラウンジ



ダンスワークショップ「葉っぱと木」(撮影:木原丹)
世田谷区立世田谷福祉作業所

トピック

全国社会福祉法人経営者大会に参加して
これからの福祉課題について考える

9月21・22日、全国社会福祉法人経営者大会に参加しました。当日は15000人を超える参加があり、兵庫県経営者協議会・社会福祉協議会の運営のすばらしさによるところが大きいと感じました。また、来年度に介護・障害・医療のトリプル報酬改定を控え、社会福祉法人の危機意識の高まりも大きく影響していると思います。今年の春闘で3・58%上がった全産業の平均賃金と福祉分野の平均賃金の格差は広がるばかりで、特に介護分野では昨年の調査で月額9万円の差が出ています。3・58%を上回る公定価格改正でなければ格差はさらに広がり、昨年の介護事業所の倒産・休業業、解散数の調査結果(全国638件)を上回ることが予想されます。

こうした厳しい状況下で行われた大会でしたが、今後の社会福祉法人のあるべき方向性が示され、苦しい中でも社会福祉法人が役割を果たしてこそ、国民からの支持の声が高まると思われました。全国経営協青年会の制度・政策マネジメント委員会が、大学教授等から学び「日本の社会福祉の課題に関する先行研究から考える社会福祉法人の新たな共生的役割」としてまとめ、今大会の分科会で報告しました。報告書は、「研究の目的・日本の課題・実践事例紹介・共創する福祉主体・共創への戦略的構築法・新たな社会福祉法人像・終わりに」で構成されていますが、紙面の都合により、「福祉課題に関する主張」について紹介します。1. 領域拡張性(これまで福祉領域と思われていた境界を越境(医療・防災・治安・保健・司法・文化・芸術等)する。2. 自治独立性(社会福祉法人の「官僚化(外郭団体化)」を避けつつ、福祉職員の裁量権限を強化し、身分・処遇を向上させる。3. 幸福追求性(行政ではできない事前のかつ資本主義の根幹に遡ったポジティブ福祉の機能拡充を進め、利用者やスタッフ、様々なステークホルダーの幸福を増進する。以上の3点です。

報告書の基調に流れる先行研究の一つは、広井良典氏(京都大学こころの未来研究センター教授)が2019年に書かれた「人口減少社会のデザイン」の10の論点と提言であり、私も大きな影響を受けていただけに、大変興味深く、当法人の今後の運営に生かしていきたいと思えました。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 高橋 信夫

特集

「未来へのステップ」 拡大版ニュースラウンジ

ポッチャの魅力を 伝える合同体験会

千代田区立

障害者福祉センター

えみふる

えみふるでは、約8年前にポッチャの用具の寄付を受けて以来、日々の活動や地域向けの公開講座を定期的に開催し、ポッチャの普及に取り組んできました。様々な活動を通じて地域とのつながりを築き、近年は地域の大学生との交流会を開催するなど、活動の幅が広がってきました。

千代田区内で活動する地域の団体（ちよだコミュニティラボアーバニスト@千代田）と連携し、合同の体験会を開催するプロジェクトに企画しました。大妻女子大学の堀口美恵子教授のご協力を得て、同大学の体育館を利用して今年既に3回開催されました。直近の夏の合同体験会では、大妻女子大学地域連携推進センター主催の小学生講座と同じ日に開催し、多くの



夏のアーバニスト@千代田
合同体験会参加者の皆さん

お子さまも参加しました。私たち職員はポッチャの講師として活動し、ポッチャの楽しさと誰でも楽しめるパラスポーツの魅力に参加者に伝えました。初めてポッチャを体験する方も多く、「とても楽しかった」「こんなに楽しいとは思わなかった」という感想をいただきました。今後も、えみふるでは地域の皆様と共に楽しい瞬間を共有し、地域社会に希望と活力を提供し、共に成長していくことを目指していきます。

ファンドレイジングと 大島恵の園移設

中神昌施設長

武蔵野会では大島恵の園の島外移設に向けてファンドレイジングを行っています。平成元年に開設し、伊豆大島で運営を行っていた大島恵の園ですが、建物の老朽化や施設の利用環境、働き手の確保の難しさなど、様々な課題を抱えています。施設を島外へ移設することで、ご利用者様の生活の維持、向上を図っていきたく考えています。

資金面では、建て替えではなく移設のため、国や都からの補助金がありません。新たに工面する必要があるありますが、ここ数年で他の施設でも建て替えを実施しており、資金計画が非常に厳しい状況です。そのため、株式会社砺（ARATO）とコンサルティング契約を結び、ファンドレイジングを行うこととしました。各企業様に電話でアポイントメントをとって直接ご訪問し、趣旨の説明をさせていただいています。

9月現在では7社から、計56万円の寄付を頂いています。ご協力いただいた皆様には、厚く御礼申す。

むさしの 武蔵野

脱プラスチック

真夜中に目が覚め、ふとテレビをつけたら海鳥の口から大きなプラスチックの破片を取り出していた。このようなニュースは何度か目にしてきましたが、あまりの破片の大きさに衝撃を受け一気に目が覚めました。そしてその後海鳥のヒナのお腹からは、人間の両手位の量の小さなプラスチック片が大量に出てきていました。2021年2月に放送されたNHKスペシャル「2030未来への分岐点（3）」「プラスチック汚染の脅威」大量消費社会の限界」の再放送でした。プラスチック製品は第二次世界大戦後一気に一般市民の生活に登場してきます。それ以降私たちは便利な生活を送ってきましたが、その代償が正に今日の前に迫っています。

外部に捨てられた廃プラは、川から海に流れ紫外線や劣化により小さくなっていきます。今や目には見えないナノレベルの廃プラが海中に溶け込んでいそうです。それをオキアミが食べ、オキアミを食べている魚が食べ、それぞれ体内には廃プラに含まれている有害物質が蓄積されていきます。人間の体内にそれらが入ってきた場合の研究もされており、最終的には母親の胎盤の周りに付着するという衝撃的な結果も出ていました。

日本の廃プラは2020年の段階で822万トンの排出、内リサイクルは86%、残りは焼却と埋め立てです。日本は東南アジアを中心に廃プラを輸出しており、生産と共に世界の上位を占めています。自分たちが出したゴミの処分を他国に任せており、日本の対策は大幅に遅れています。今年の夏も猛暑が続く、国連の事務総長が「地球は沸騰化の時代に入った」と語っています。何とかしなくてはならないながら、個人レベルで何ができるのかと思いがちになります。発信された情報をもとに小さなことかもしれないが「こうした方がいい」ということを、一人ひとりが実践し積み上げていくしかありません。既に生命を脅かしている環境問題、何気なく捨てているゴミの行方をもう一度考えてみるきっかけとなりました。

白鳥福祉館

施設長 日下 幸重

し上げます。また、寄付以外でも地域の企業様とお話しさせていたでくことで繋がりが出来、今後の地域貢献に活かしていければと思います。

大豊作のじゃがいも畑 希望の里

希望の里では通年で季節に応じた野菜を育て販売しています。毎年海外の珍しい野菜など、新しいものにも挑戦しています。白菜、じゃがいも、玉ねぎ等は購入された方に好評で必ず育てる種類もあります。中でもじゃがいもは今年も大豊作でした。アンデスレッド、きたあかり、男爵と3種類の収穫量は150kgを超え、数人で行ってもかなりの時間がかかりました。いつも野菜を販売している八王子市役所の売店、ワークセンター、八王子生活実習所や八王子福祉作業所のご家族、職員、利用者などたくさんの方にご購入いただきました。

また、今年度もすぎな愛育園の園児たちが保護者と一緒に、じゃがいも掘り体験に来てくれました。元気で楽しそうな笑い声とともにスコップや素手でたくさんじゃがいもを収穫していました。

今後も、すぎな愛育園だけでなく、近隣の小学校や事業所などに体験してもらい、地域交流が出来ればと思います。



じゃがいもの収穫

コミュニティカフェ リアン文京

令和5年6月28日、文京区音羽に「カフェBUNBUN」に続く新たなコミュニティカフェが誕生しました。名前は「ツイーディア」です。ツイーディアは、星形の花を咲かせる植物の名前です。

このカフェは、リアン文京のミッションである「絆社会の実現」のためのプロジェクトのひとつです。今まで、福祉になじみなかった方でも、生活動線上にある「カフェ（喫茶店）」であれば気軽に立ち寄りやすいと考えまし



明るいツイーディア店内

た。地域の人々が共につながり支えあう共生の街づくりの新たな社会資源になることを目指しています。また障害をお持ちの方、休職中の方やひきこもりの方が、短い時間から働ける仕組みを作って、まず社会とゆるやかにつながる第一歩となる社会参加、就労の場としての役割も持つカフェにしたいと思っています。すでにさまざまな関係機関ともつながり、ネットワークができてつつあります。コミュニティカフェは、いろいろな人たちの思いや社会の要望から生まれています。「ツイーディア」がこの地域に暮らす子どもからシニア、障害のあるなし、国籍などにかかわらず、人々がともにつながり支えあう場所になることを目標に一歩を踏み出したところです。ぜひ一度遊びにいらしてください。

練馬福祉園建て替え
練馬福祉園

令和4年12月から、陶芸棟やプール棟、給水塔の第一次解体工事が始まり、翌5年2月には解体が終了。仮設建物基礎工事のため、見たこともない大きさの重機が登場し、時折感じる振動に驚きながら、7月末には仮設の建物が完成。各種検査後、8月10日には建物引き渡しとなりました。

引越しは、8月25日～31日にかけて段階的に行いましたが、酷暑であることと入所部門の夏休み期間であること、ひとつの部署で新型コロナウイルス感染症のクラスター感染が発生していたことから、かなり緊張感がありました。これまでの経験から、他の部署に感染が広がるのではないかと不安は大きかったのですが、引越後数日で終息。どの部署も事前準備をしっかり行ったため、余裕を持って終えることが出来ました。

新しい環境に馴染めない利用者も多いのではと心配しましたが、大きな混乱もなく新しい生活がスタートしました。本設の完成は、半年ほど遅れ令和8年2月頃になりそうですが、今は、二次解体工

大規模改修「BBcafe」
鳥山福祉作業所

今年度から生活介護事業を開始するにあたっての環境整備と建物老朽化に伴う大規模改修工事を前年度1年間かけて行いました。この間、仮設へは移らず、十数名の方が北鳥山地区会館の一部で作業を行いました。他の皆さんも感染症対策を行いながら工事箇所に合わせて所内を移動しつつ騒音や手狭さの不便の中で過ごすこととなりました。

そして、工事を終えた今年、新規事業と共にスタートしたのが、BB（ブラックボード）cafeです。数名の利用者がローテーションを組み、作業所で作ったシロップを使った梅ソーダやコーヒーマシンのドリンクに、スイーツやピザなどのフードメニューもご用意しています。今夏は、三種（苺、抹茶、葡萄）のかき氷で、ひと時の涼を感じていただきました。オープンして半年、とんでもない金額のレシートだったり、メニューが若干異なっていたり、まだまだ勉強は必要ですが、利用者が主体的に運営するカフェとして、また、地域の方の居場所の一つとなるように今日もみんなで頑張っています。

事の重機の揺れに身を任せながら、本設での改善点を皆で練っています。



仮設福祉園の外観

4年ぶり60回記念
大会が大盛況
お花茶屋ふるさとまつりに出店
葛飾地区

葛飾区お花茶屋地区の夏の風物詩で、地域におけるふれあいの輪の広がりを目指す「お花茶屋ふるさとまつり」。3晩連続という区内有数の大規模開催で知られるこのお祭りはコロナ禍のため3年連続で中止となりました。今年は感染防止対策を前提に4年ぶりの開催、しかも60回記念大会の大賑わいとなりました。折しも会場のお花茶屋公園から目と鼻の先にある共栄学園高等学校野球部が甲子園初出場を決め、地元から甲子園へのエールを送るお祭りともなりました。



BBcafeでお待ちしています

「半福半X」の取組
法人本部

福祉の人材不足は深刻で、法人でも重要課題として取り組んでいます。特に離島である伊豆大島では、島内の人口も年々減少し、なかなか職員採用ができない状況が続いています。

反面、大島は竹芝桟橋から高速船で約2時間という好アクセスのため、都心からの移住地としても人気があり、新たにお店を開いたり、クリエイティブな仕事に就く人もいます。実際に大島で活躍されている方々と交流する中、「Work in Local x Social」という、大島という土地だからできる福祉施設で働きながらローカルな

した。

20年前、白鳥福祉館利用者の社会参加と地域貢献のため、自主製品販売や模擬店出店を行いたいと地元の方々から申し出たことが参画の始まり。以来、長きにわたり実行委員会のメンバーとして運営に携わり、現在は葛飾地区の4施設職員が協働して、相場よりも安価で知られることも縁日広場の模擬店運営等に従事しています。

8月1日から3晩連続で鉄板焼き機を使った磯辺焼きと白鳥福祉館の自主製品を販売、売り上げは30万円程になり、磯辺焼きの利益の約12万円を被災地等の義援金に、自主製品の利益約3万円は利用者の工賃とさせていただきます。お花茶屋地区の皆様、お買い上げありがとうございました。



人出が絶えない模擬店では葛飾地区の職員が汗をかきかき大活躍！



さくら学園
旧2・3寮跡地の舗装整備を行いました。さくら学園は災害発生時に福祉避難所として地域住民の受け入れを想定しています。コロナ禍で地域住民との交流を自粛していましたが、今年度は交流の場としても活用していこうと考えています。

武蔵野児童学園
今年の夏は数年ぶりの宿泊旅行、招待者を入れてのサマーフェスタが行われました。しかし、どの企画をとっても、3年目の職員ですら未経験のことでしたので企画担当は大変だったと思います。「元に戻る」というより「新たな企画」をまた皆で考えていきましょう。

駒沢生活実習所
9月8日、数年ぶりにどんどこフェスを開催しました。移動動物園を企画しましたが、あいにくの雨天で残念ながら動物園は10月に延期でした。利用者の皆さんには、所内レクを中心にお祭りの雰囲気を楽しんでいただきました。

九品仏生活実習所
9月末から、4年ぶりの日帰り外出を再開しました。行き先は町田のグランベリーパークです。利用者職員で10人程度の小さなグループでしたが、久しぶりの遠出はワクワクします。1泊旅行再開に備えた肩慣らしにもなった様子で、利用者のみなさんが楽しむ様子に、職員は手応えを感じました。

八王子生活実習所
9月16日「わたぼうし祭」を開催し、久しぶりの地域開放行事に多くの方が来所してくれました。模擬店・お囃子・ゲームスタンプラリー・コンサート等を楽しみ、今年のテーマである「賑（にぎわい）」と笑顔があふれる1日となりました。

光が丘福祉園
コロナ禍以降、控えていた地域交流を少しずつ再開しています。まず始めに、施設の玄関前で10月16日から20日までミニバザーと同時に自主製品の販売を行いました。近隣650世帯にチラシを配布し、多くの方に来場いただきました。

すぎな愛育園
11月18日（土）、地域の保育園、幼稚園など子どもと関わる職種の方々を対象に、すぎな愛育園セミナーを開催します。こども教育宝仙大学の守巧先生を講師に「インクルーシブな保育とは」をテーマにお話をさせていただきます。

さね川福祉作業所
実習を経て10月から新たに1名の利用者が入所しました。新メンバーが加わり施設内の空気も今までと少し変わり、活気が出てきています。



大島訪問ツアー

環境で自分らしい働きかた（半福半X）半分福祉、半分は違う働き方）ができないかと活動を始めています。

まずは、7月9日、10日の2日間に、今回の企画で興味を持った方々と大島ツアーを行い、14名の参加者がそれぞれの「半福半X」を考えました。そして、9月10日には、ツアー参加者による「わたしの半福半X」をテーマにした公開プレゼンテーションを開催し、一人ひとりが大島での自分らしい生活スタイルを発表していました。これからも色々な角度から働き方を考え、大島での仲間を増やしていきたいです。

法人決算報告書

法人単位貸借対照表
令和5年3月31日現在

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	4,818,632,617	4,317,320,845	501,311,772	流動負債	873,130,379	819,607,989	53,522,390
現金預金	3,489,429,608	3,308,407,373	181,022,235	事業未払金	332,776,859	281,328,079	51,448,780
事業未収金	857,123,760	812,503,344	44,620,416	1年以内返済予定金	42,118,364	42,118,364	0
未収金	133,177	81,550	51,627	1年以内返済予定負債	27,424,764	19,922,374	7,502,390
未収補助金	413,952,706	116,358,852	297,593,854	未払費用	81,755,577	70,084,518	11,671,059
受取手形	73,590	0	73,590	預り金	93,892,925	78,482,166	15,410,759
貯蔵品	10,761,142	10,468,824	292,318	職員預り金	16,834,457	45,316,293	-28,481,836
立替金	8,505,759	42,653,695	-34,147,936	前受金	1,434,000	1,080,400	353,600
前払金	5,558,280	11,986,642	-6,428,362	前受収益	1,109,700	1,072,400	37,300
前払費用	34,181,842	16,003,921	18,177,921	仮受金	641,036	7,251	633,785
仮払金	94,094	37,985	56,109	賞与引当金	275,142,697	280,196,144	-5,053,447
徴収不能資産	-1,181,341	-1,181,341	0	固定負債	1,384,277,520	1,388,081,712	-3,804,192
固定資産	10,463,512,179	10,590,953,774	-127,441,595	設備資金	812,251,876	854,370,240	-42,118,364
基本財産	7,338,145,134	7,636,740,098	-298,594,964	借入金	57,218,834	28,520,590	28,698,244
土地	618,242,917	618,242,917	0	退職給付金	514,806,810	505,190,882	9,615,928
建物	6,719,902,217	7,018,497,181	-298,594,964	負債の部合計	2,257,407,899	2,207,689,701	49,718,198
その他の資産	3,125,367,045	2,954,213,676	171,153,369	純資産の部			
資産の部合計	15,282,144,796	14,908,274,619	373,870,177	基本金	643,522,735	643,522,735	0
				国庫補助金等	3,049,448,810	3,156,296,158	-106,847,348
				特別積立金の	1,132,929,794	1,571,429,794	-438,500,000
				その他の積立	8,198,835,558	7,329,336,231	869,499,327
				繰越活動増減差額	430,999,327	377,144,918	53,854,409
				(うち当期活動増減差額)	13,024,736,897	12,700,584,918	324,151,979
				純資産の部合計	15,282,144,796	14,908,274,619	373,870,177
				負債及び純資産の部合計			

法人単位事業活動計算書
(自) 令和4年4月1日 (至) 令和5年3月31日

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	介護保険事業収益	651,978,445	614,103,812	37,874,633
	児童福祉事業収益	477,916,497	470,876,499	7,039,998
	就労支援事業収益	106,482,282	93,717,174	12,765,108
	障害福祉サービス等事業収益	7,804,133,701	7,637,098,498	167,035,203
	経常経費寄附金収益	25,267,549	135,894,055	-110,626,506
	その他の収益	13,584,478	14,392,444	-807,966
	サービス活動収益計(1)	9,079,362,952	8,966,082,482	113,280,470
	費用			
	人件費	5,800,369,349	5,670,946,441	129,422,908
	事業費	1,055,865,701	948,595,951	107,269,750
	事務費	1,682,364,788	1,589,892,127	92,472,661
	就労支援事業費用	119,495,947	109,552,634	9,943,313
	利用者負担軽減額	92,185	197,775	-105,590
減価償却費	445,770,014	449,178,611	-3,408,597	
国庫補助金等特別積立金取崩額	-167,049,357	-171,531,084	4,481,727	
徴収不能引当金繰入	0	1,017,985	-1,017,985	
サービス活動費用計(2)	8,936,908,627	8,597,850,440	339,058,187	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	142,454,325	368,232,042	-225,777,717	
外増減				
収益	55,798,221	50,821,512	4,976,709	
費用	47,853,996	47,560,397	293,599	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	7,944,225	3,261,115	4,683,110	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	150,398,550	371,493,157	-221,094,607	
特別増減				
収益	344,442,092	24,880,761	319,561,331	
費用	63,841,315	19,229,000	44,612,315	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	280,600,777	5,651,761	274,949,016	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	430,999,327	377,144,918	53,854,409	
繰越活動増減差額				
前期繰越活動増減差額(12)	7,329,336,231	6,976,191,313	353,144,918	
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	7,760,335,558	7,353,336,231	406,999,327	
基本金取崩額(14)	0	0	0	
その他の積立金取崩額(15)	442,000,000	11,000,000	431,000,000	
その他の積立金積立額(16)	3,500,000	35,000,000	-31,500,000	
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	8,198,835,558	7,329,336,231	869,499,327	

令和4年度 法人事業報告

1. 事業方針についての報告

(1) 安定した運営継続の対策と組織改善の取り組み

法人の方向性は、「定常化に徹し、役割を拡大する」を継続した。全体では、一昨年の虐待、不祥事の組織改善を最重要事項とし、安心して利用いただくための取り組みを行った。中長期の課題(重点施策)は、その後も整理を重ね、年度途中から取り組んだ。基本に戻り、質の高い安定した支援の継続が大事であると認識し、原点回帰を大切にしたい。

職員採用は、外国人採用も進めているが、6年度新卒採用は、福祉に特化した団体と契約し、目標を定め、採用方法を刷新した。また、福祉に関心もつ大学生を増やすため福祉学部ではない大学生による「ふくしデザインゼミ」を開講した。プロの編集者やデザイナーを講師とし、法人職員やデザイナーに携わる人の取材から「武蔵野会に関わる人図鑑」を制作した。

2. 重点施策の事業報告

(1) 現場力の強化

- ① 支援介護基本ブックの改定
今年度は、組織、現場の改善を優先したため、基本ブック改定は次年度の継続課題とした。
- ② 運営ハンドブック作成
施設の基本業務を共有し運営する為のハンドブック作成以前に、施設長の基本業務を見直し、視覚化できるよう施設長ロールプロファイル作成を行った。求める人材像、必要な資質、責任を持って行う業務の可視化等、年度末に成果物の提出を受けた。これを基に、次年度は研修と業務チェックを行い、運営ハンドブック作成を開始する。

(2) 人材採用と定着強化

- ① 外部コンサルによる採用活動
全産業での慢性的採用困難、福祉への誤認と風評被害で希望者の減少が止まらない。法人は、福祉求人を進める団体と契約し、新卒採用から採用活動の見直しを始めた。求人フェアの対応、継続した学生へのフォロー、採用面接の刷新等を年度末から始めた。合わせて「ふくしデザインゼミ」を開講し、福祉を知らない学生へ福祉の魅力を伝えた。大島の採用困難

は、コンサルと採用担当が大島を訪問し、島内のつながりを広げ、求人可能性を探った。次年度は、担当職員を増員し目標達成を目指す。

(2) 外国人採用の強化

介護中心の外国人採用情報を共有した。資格取得の継続雇用、上限雇用人数、雇用に係る各種申請等、雇用後の留意事項をまとめる作業を開始した。

(3) リファラル採用の導入

職員に採用活動を促し、採用に至った場合にインセンティブを出すリファラル採用を導入した。

(4) 人事部創設の検討開始

人事異動のための職員情報一元化、本部経験に基づく本部職員育成、専門職員登用等、人事部導入の検討を行ったが実施は次年度とした。

(3) 資金確保

- ① 長期資金計画の作成
次年度への継続課題とした。
- ② 本部繰入金増加の仕組みと施策の実践
本部に繰り入れる収支差額を精査し、使用可能額を明確にする目標であり、本部機能見直しの中で検討したが、改善は次年度の課題とした。

(3) 企業や個人の寄付金獲得

都内全域でファンドレイジング

を開始、各施設の支援を受け企業訪問も始めた。地域企業に寄付要請を行い、大島恵の園の建て替え資金獲得を本格化する。

(4) 本部機能見直し

① 法人規模拡大に伴い、本部業務内容を精査し、業務省略化を図った。変更は次年度とした。

② ①と並行し、法人決裁効率化、迅速化のため、職務・決裁権限見直しを行い、次年度改善とした。

(5) 事務オペレーション標準化、効率化

① 業務省力化・合理化、委員会の役割、目的の明確化と計画的実施課題形成の検討を実施した。

② 本部会計集中化の具体的検討事務員全員から業務課題と改善意見を集めた。経理機能の本部集中で様々な解決につながるというコンサルの答申から、本部の集中管理化計画を進める。

(6) 地域福祉の取り組み

各施設の地域公益活動の共有と展開各施設が地域ニーズを把握し、地域公益活動を展開した。推進委員会は取り組みを冊子化し共有を図る予定だったが、活動は次年度とした。

(7) 大島恵の園の支援

法人全体支援を継続した。

お知らせコーナー

10月

- 21日(土) 武蔵野会セミナー (オンライン開催)
- 25日(水) ハロウィンイベント (第2大島恵の園)
- 27日(金) ぼんぼんフェスタ (九品仏生活実習所)
※内部開催
- 28日(土) 秋祭り (烏山福祉作業所)

11月

- 2日(木) 第22回くすのき祭(東堀切くすのき園)
- 9日(木) 東アジア市民フォーラム(リアン文京)
- 11日(土) 実践事例報告会 (葛飾地区)
- 16日(木) 法人永年勤続者表彰 (八王子)
- 17日(金) 実践事例報告会 (世田谷地区)
- 25日(土) 実践事例報告会 (練馬地区)
- 26日(日) Session! TOKYO2023出展・出店
(法人全体)
- 28日(火)

12月

- 2日(土) 障害者フェスティバル(大泉町福祉園)
- 6日(水) 東社協地域公益事業実践報告会
(リアン文京)
- 22日(金) クリスマス会 (駒沢生活実習所)
- 22日(金) クリスマス会 (東堀切くすのき園)

車両寄付

八王子福祉作業所

当所は就労継続B型、就労移行、生活介護と3つの事業を展開し、100名程の方が施設を利用しています。一体的に運営する「ふじもりホーム」と協力し車両を使っていますが、通院や納品、多岐に渡る業務で、たびたび車両不足が発生してしましました。現状では、利用希望者の増加や高齢重度化に伴い、特に車椅子のまま乗降できる車両の増車は喫緊の課題でした。一方で必要職員数の増加や長引くコ



ロナ禍の影響で収支差額は減り、車両の購入に踏み切れませんでした。そこに舞い込んで来たのが一般社団法人生命保険協会東京都協会様からの(東京善意銀行の仲介)車両寄付のお話です。さっそく応募すると、見事に当作業所への購入資金寄付が決定しました。それを活用して購入したのが写真のN-BOXです。



大活躍のN-BOX

ショーケース

自主生産品紹介

新商品

シュトレーン

小平福祉園

☎042・433・9330

クリスマスまでにちよつとずつ食べる「シュトレーン」を販売して3年目になりました。今年も利用者さんが作製に関わった自主生産品やクッキー等をセットにして販売します。毎回大好評で今年は柘のオーナメントつき!ぜひお試しください。



シュトレーン (税込み1,000円)

和花(のどか)

ジョブ・サポート・プラザちよだ

☎03・3263・1841

ジョブ・サポート・プラザちよだでは、えみふるとの養蜂プロジェクト「和花(のどか)」を使った商品を開発予定です。それに先立ち、2023夏のギフトでは「和花」を使用したはちみつマドレーヌやはちみつノワゼット、は

ちみつレモンパウンドケーキを作製し、ご好評いただきました。通常販売に向け、ただいま準備中です!

フィナンシエとフロランタン

八王子福祉作業所

☎042・626・0631

株式会社MNH様から小麦粉を使わない(グルテンフリー)商品の製造・販売のお話を頂きました。今年6月から試作を重ね、この度、米粉と玄米粉を使ったフィナンシエとフロランタンの商品化が決定しました。米粉と玄米粉の香ばしさが感じられ、美味しく食べていただけました。是非、ご賞味ください。



グルテンフリーのフィナンシエ



和花を使ったマドレーヌ

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する事業所の利用者のためにより良い環境や施設の充実、円滑な運営などを物心両面から支える組織として武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により会の拡大を図り、法人の運営基盤の確立を応援していますのでご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町1-19-3
電話・FAX 042-626-9772